

日 時 : 2010年2月13日 13:00~18:00、14日 9:00~15:00

場 所 : 愛知県名古屋市東区 東桜第一ビル

出席役員 : 篠田 野元 山本 古賀 桑野 吉留 佐藤 川村 内田 宮崎
西村 井田 森本 岡田 百済 白石 安部 栗原 山田

1. 出席確認

出席19名、委任状3名

オブザーバー紹介

中部水域:西村さんの今後のサポート役として内山さん、北陸水域:宮崎さんの後任として村山さん

2. 会長挨拶

協会の盛り上がりは各水域の頑張りにある。協会活性化のため、活発に議論したい。

3. 理事長挨拶

経済の低迷によりスナイプ協会の活動も衰退気味。ワールドの参加枠返上、全日本参加チームの減少に現れている。アマチュアスポーツ興隆のため頑張っけてゆきたい。

4. 大会報告

(1)全日本スナイプ

概ね好評だったが、宿泊場所の案内方法に要改善点があったが、補助金をもう少し欲しい。

一部の選手に計測などの知識不足が見られ、運営の障害になった。

予め、計測などの手順をHPなどで知らせ、選手の啓蒙を図ったら良い。

(2)全日本マスターズ・女子

マスターズはここ数年、30チーム弱が参加。好評であったと思う。女子の参加チームを増やしたい。

(2009年は7チーム) 今後、中部水域で開催する場合は、若手運営要員の育成が課題。

(3)フェスティバル

配布資料参照下さい。

(4)実業団

2009年は千葉市稲毛YHで開催、アイシンAIが優勝。2010年は山口県光市で8/26~29で開催予定。

実業に従事している人であれば、参加可能。ただし、高松宮妃記念杯は単一企業チームに授与。

(5)各水域報告

① 北海道 : 計測員の養成講習会を開催、有意義であった。

② 東 北 : 2011年の全日本開催に向けて準備を開始。

③ 関 東 : 湘南フェスティバルは参加艇数59と盛況で良い雰囲気。敷居が低いのが理由と思う。

④ 北 陸 : SCIRA登録者数が増加し、金沢大の全日本インカレ出場で湧いている。

2014年にインターハイを開催予定。2016年の全日本スナイプ開催を視野に入れている。

⑤ 中 部 : 運営の世代交代、学生選手の取り込みが課題。今年はレース開催数増加を考える。

⑥ 琵琶湖 : レース参加艇数、会員・艇体登録の減少傾向続く。ホットッグ・パーティーは好評ゆえ継続

⑦ 関 西 : 8月7~8日の関西選手権など、更にレース企画に参画してゆく。

⑧ 中 国 : 艇登録9艇減少。選手登録は広島が増加するも、岡山、鳥取、山口の社会人減少。

⑨ 四 国 : 海の日に四国スナイプ選手権を実施、単独開催は出来ぬので県連主催の大会に便乗

⑩ 九 州 : 百済理事の計測講習会、安部理事のチューニング講習会が好評だった。

⑪ 鹿児島 : ハーバー内に新艇庫(鹿児島国際大学ヨット部)が完成した。

(6)各部報告

① 計 測 : 更新手続き未完了の計測員がいる。各水域理事はフォロー願う。

フラッターパッチのサイズ、ジブララインに繊維を使用する事の許可などのルール変更紹介。

② 強化・ジュニア:2010年3月24~28日に全日本ジュニア選手権を和歌山SCにて開催する。

③ 強化・学連:2009年ワールドに3チーム派遣した。白石組4位入賞。3回のワールドに連続入賞。

④ 強化・女子:2010年全日本女子、11月の女子ワールド@フオリダを山田理事が会員にPR中。

(7)会計報告

決算報告 : 2009年の決算報告が事務局より報告あり、参加者全員の承認を得られた。

国際大会関係の積立金会計を起こす。

(8)役員改選

会 長 : 山本二郎さんが退任し、野元健一郎さんが就任

顧 問 : 前会長の山本さんが就任

澤村副会長 : 退任、顧問への就任要請をする。

齊藤副会長 : 退任

新副会長 : 古賀さんが就任し、九州水域理事も兼任。北海道水域理事を退任する佐藤さんが就任。

理事長 : 古賀さんから桑野さんに交替。

副理事長：実業団担当の栗原が就任。次期理事長でなく、新理事長の補佐という位置付け。
北陸水域：宮崎さんから村山さんへバトンタッチ。宮崎さんは顧問に就任。
北海道：2010年度中に3名の候補から選出、交替の予定。人選は佐藤現理事に一任
九州：野元さんから古賀さんに交替
井上理事：退任
富田監事：退任。後任は斎藤渉さん。斎藤新監事は理事会に出席、議決権あり。
会計監査人：野見山謙さんになっていただき、外部の視点からも点検していただく。
事務局長：吉留さん留任
強化担当理事の担当領域は桑野理事長が検討する。

(9)2010年度の行事予定

- ①全日本スナイフ：長崎県サンセットマリナーにて11月10～14日で開催。
- ②全日本マスターズ：広島市観音マリナーで9月4、5日に開催。
- ③全日本女子：マスターズと分離し、6月5～6日に海陽YHで行われるミッドランドJAPANと共催で行う。
- ④全日本ジュニア：和歌山で2011年3月の2～3週目に開催する。
- ⑤西半球選手権：8月30日～9月3日カナダ オンタリオ湖のバッファローで開催される。
日本には東洋チャンピオン(1)と国別枠(5)、ジュニア(1)と女子(1)の合計8チームの参加枠あり。
各水域理事より参加対象チームに連絡する。繰り下げは全日本20位を限度とする。
- ⑥女子ワールド：11月8～12日フロリダにて。参加資格はオープン。
- ⑦マスターズワールド：9月12～19日 リオデジャネイロにて。参加資格はオープン。

(10)2011年以降の全日本スナイフ

2014年または2015年に日本・和歌山で国際大会の開催を目標とする。(理事長、白石理事リード)
そのリハーサル大会として2013年または2014年に全日本スナイフを和歌山で行うことを検討する。
開催地と時期は以下とし、次回理事会で2011年大会について決定する。
2011年：東北(名取市ゆりあげYHにて10月6～10日を予定しているが、関東インカレとダブル解消が必要)
2012年：中国(広島開催を検討中だが、例年の開催時期である11月は風が無く、9月に前倒ししたい)
2013年：北海道(江差または小樽にて9月に実施)
2014年：四国
2015年：関西
2016年：北陸

(11)2010年度予算

事務局案に対して、①ジュニアのワールド補助費(20万円)、大会補助(7.5万円)を削減、②SCIRAに納入するフリート代は各フリートが500円負担する、③役員SCIRA国際会議への出張旅費10万円を計上する事を修正のうえ、承認された。

スナイフフェスティバルへの補助金支給規準、各水域理事の活動費支給を理事長が提案する。

(12)ルールブックの製作・販売

製作部数は500部、とし、販売価格(Max. 2000円を目標)、各水域の取次ぎマージンを理事長が提案する。
4月末販売開始を目標とし、会員へは各水域理事を通して販売する。
掲載広告を各理事が集める事。原稿提出期限は3月末。

(13)協会規約改正

役職に副理事長とその役割を追加した。
代議員制の復活や、専門理事の役割明文化など理事長リードで1年間程度掛けて検討する。

(14)会員登録と会員証の発行

会員証の発行を止める。登録手続きフロー、登録番号確認方法を2月末迄に理事長、井田理事が提案する。

(15)SCIRA納入費用の削減検討

セイルロイヤリティータグの国内大会用と国際大会用の使い分けが可能か否か、SCIRAに問い合わせをし、可能であればそれを行い、会員の費用負担を軽減する。

会員登録点検行為への反発の実情を紹介し、USAなど他国の実態、会員登録点検の監視緩和(会員数減少)について問いかけを行う。

(16)賛助会員制度

募集目的の明確化をする必要あり。継続検討する。

(17)JSAFから「国体リハーサル大会でのスナイフ級クラスルールの変更許可申請(アンカー、パドル搭載の任意化)

了解する。

(18)国体へのスナイフ復活

国体開催県が艇種を決定できる。長崎国体ではスナイフの復活をトライする事の紹介が古賀副会長よりあり、全員の了解が得られた。

(19)理事会での決定事項とタイミング

今後は、全日本大会の開催時に行う理事会で、翌年の全日本大会の日程、役員人事を決定する。